

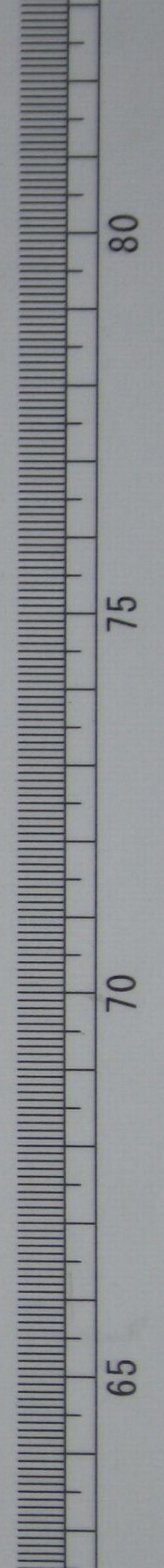
明治四辛未十月

新聞輯錄

第一號



西垣文庫  
文庫 10  
7309



特 文庫10  
7309

緒言

西壇文庫

西壇文庫

新聞の西洋は行り、や尚我寛永年間佛蘭西國の創始  
近世各國其局を開くごるなきに至り  
皇國は於而大昕柳河氏の中外新聞を以嚆矢とす惜哉  
大昕下世して其業又中廢す好事の士頗遺憾なり事不  
能は茲頃日新堂雜誌なるもの出て大に世り行る官省  
の法令庶民の産業巷里の美談文藝の奇拔洋書の譯文  
海外の新報五穀の豊山物價の高低其他物品の瑣動植  
の微に至るまで凡そ耳目は新なるものを博載して

新聞の西洋は行り

不漏さ採擇最勤むと云ふべし然りと雖寥宇の宏大なる事物の衆多なる彼淘沙之餘猶宜得金屑乎今其逸遺を撿拾して新聞輯録と名け官に請ふ事を得一月三次是を刊行して世に公す冀ハ大方の君子隣婦效顰の陋を笑ふ事なく奇事異聞の何多ありハ随得随賜せしめん事を以僕輩寡乏の知見を増益し輯録紙上光華を生せハ幸甚伏乞

辛未十月

社中

新聞輯録第一號

明治四年辛未十月

○京都府町觸

良木栽培ハ國家後年の永益を備る理に候處從來荒神松と唱稚松の幹を伐取り神佛に供或ハ年始に門松と唱松幹を伐取り戸外に植る等の儀有之天成之良材を殘ひ後年國家の用を闡さ甚以不冝事に付自今右荒神松門松其外都て松幹伐り取神佛へ供へ遊戯に用る事一切禁止之事

但門松之儀ハ自今松枝を可用事

右之趣山城國中無洩相達する者也

辛未九月

京都府

九月九日の事の由舊出石藩知事當時少議官仙石從五位元家来へ申渡は數百年来主従の厚誼何れも誠志は勤仕殊は先年削封已来は家中手當も薄少にて一紗困迫此中と精勤し候事感激の至り候處此度知事免職東京移住に就ては永く相別離候事故寸志計りの目錄遣一候元来品にて遣一可申候得とも銘々生計

の微補もと金子にて遣一候と申趣意の由

- 七拾兩宛 上士 五十兩宛 中士
- 三十兩宛 下士 十五兩宛 卒

右人別は被下候凡一家中千人は餘り入用三萬兩近く従来之貧藩更は餘財等無之處持傳之器財手元之品等不殘大阪へ持出賣却唯殘一候は書籍類計りの由其金子は不殘配分賜給被致候と

舊一宮藩知事加納氏免職出府に付士族へ金八十兩宛

卒へ五十兩ヲ、卒之内も次第有りて廿兩或ハ十五  
兩ヲ、中間小者へ二百足リ管轄中不殘へ米百俵村  
吏共へ酒肴自筆と給り其他士族へハ自筆一枚ヲ、官  
吏の向へハ所持之武器或ハ家具へ酒料を添へ自筆一  
枚ヲ、賜りたる由

○  
一穢多非人之稱被廢一般民籍を編入身分職業共同一  
相成候様被仰出候に付左之通奉伺候

一穢多非人之儀ハ従前市中河岸地又ハ川中やま地

社寺境内等普請之町地と離れ無税之地と罷在候故

一時町地へ借地借店も成兼候情態も有之至急轉住  
も行届間敷に付先有来り之場所に差置河岸地又ハ  
附屬地住居人之名録に差加置可申哉

但其河岸地附屬地住居人本籍編入之規矩一定  
之節同様入籍取計候積り

一地税之儀ハ河岸地又ハ附屬地共其場所々々にて相  
當之見競一區々より相伺候

一非人共是迄日勸進並吉凶に付町家より金錢施受候

慶平氏相成候上ハ右様施乞ハ一切為相止候積り

但聊引拂可被下置哉

一穢多非人産職之内ハは獸類皮剥渡世之者有之候間  
此分屠牛渡世之振合を以兼而屠場相願候様為致候  
積り

右之通奉窺候以上

辛未九月

世話懸

中年寄

第一條より第三條迄 伺之通

第四條 伺之通

但御手當之儀ハ難被下候間移住都合出来候迄  
引拂方猶豫致置不苦候事

第五條 伺之通

尤皮剥場ハ屠牛場之規則ニ准一人家へ懸隔の  
地所と見立更ニ願出候様可取計事

一舊高松藩知事松平頼聰免職歸京ニ付管内農民等申  
合是非抑留すべくして連判の歎願書を出せし者あ  
りし官吏種々説諭を加へ置九月八日出帆當日

旧ノ誤

至り多人數所へ集り退く。四知事郵外に群集せし  
に付家令家扶等より連々説得すれども更に兼引せ  
せ且近海へも小船を以て遮らんとす尚大少参事初官  
貞 朝旨を以て懇々説諭すれども衆心氷解せず姦  
民其虚を乘り良民を煽動し竊に兵器を携へ民家を  
放火する者ありければ無余儀兵隊繰出猶更説諭せ  
し慶未と發砲し及バざる内何きも城中を引拂夫々  
歸村す然るに往々山谷に昧伏せる輩もあり故尚  
又兵隊繰出豪強の者三四十人計生縛し其余ハ説得

教諭中の由尤一様蜂起抑留せりと雖も可愍者可憎  
者混淆せりと云

一東海道の内尾州勢州の間驛路等に於て屢郵便飛脚  
の暗殺せしむる旨相聞へ名古屋縣より兇徒捕縛方  
手配中已に右黨類の内勢地並尾州地に漂泊せし元  
秋田藩脱走滑川源吾二男劍客同姓政雄と申者を初  
め三四名捕獲夫々糺弾しおとびし勢州桑名郡町  
屋川におおく郵便飛脚を殺害し其便状を奪ひ切捨

其他追剥強盜之所業も四五箇所申願せし由全く無  
産之徒今日の活計は迫り強盜を働かんと見へ外は  
余黨三四名も有之趣なり

神祇省へ九月十二日

臨御之節宣教博士八田知紀和歌二首を献す

いそまの大海をめぐりても木も世のいろ也 とふらん

赤心報國

二つちよふとも忘るくつとてはるるたくと とふらん

夢ノ誤

### 報告定價

一行三匁宛々

一ヶ月分價八匁五分

三ヶ月廿四匁五分

六ヶ月分四拾六匁

右定之通賣弘所 江

本局

新聞社

日本橋四日市

賣弘所

和泉屋半兵衛



